

一人で暮らす高齢者の在宅生活を持続可能にする  
居宅内生活行動モニタリングシステム

取組開始  
時期

2019年12月

取組の  
カテゴリ

高齢者福祉・介護

1. 団体名 株式会社ウエルモ

2. 連携先  
の団体

豊島区（福岡市、つくば市：2020年度実証開始予定）

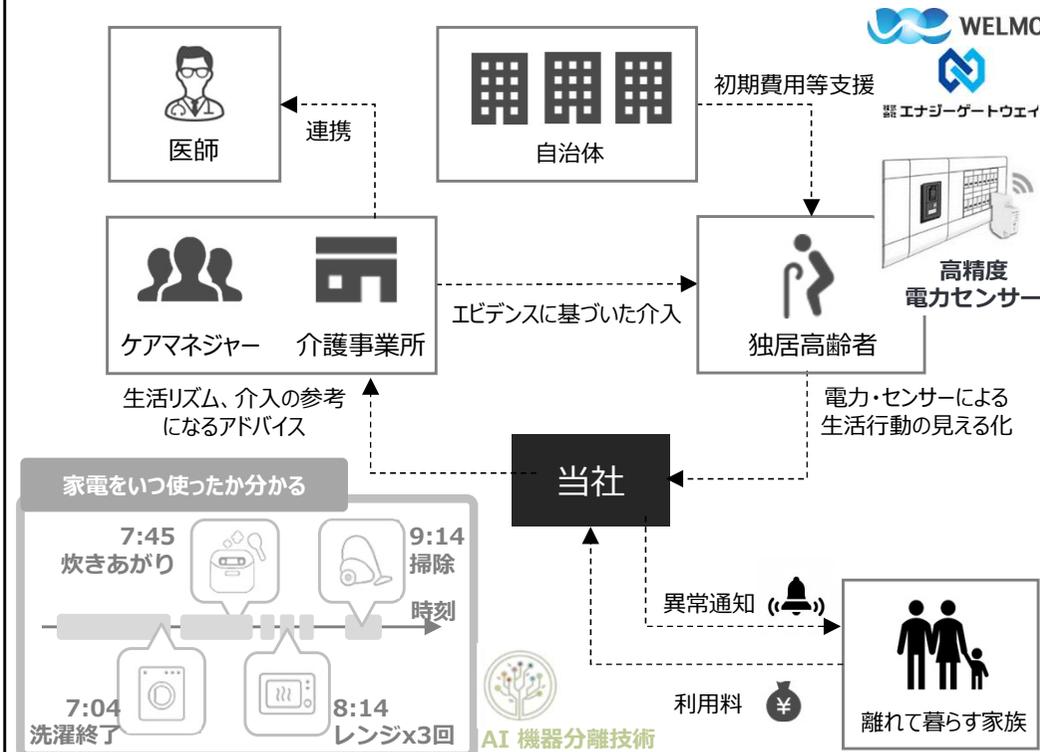
3. 取組  
目的 独居高齢者でも安心して自宅で暮らすことのできる、常時～非常時の切れ目ない介護サ  
ポートシステムの形成。

4. 関連する  
ゴール



5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

AI、IoT技術を活用した  
高齢者の見えない生活を見える化する仕組み



分電盤に1つセンサーを付けるだけで、家庭内の家電利用を知ることが可能。  
検知した電力使用データ、生活データをモニタリングAIが行動推定データとして提示することにより、**居宅内の高齢者の生活リズムを「見える化」**。  
そのデータをご家族や地域のケアマネジャー、介護事業所が確認することで、介護サービスを利用していない時間の高齢者の方の生活リズム、生活実態が把握可能。



【今後の方向性】

地域に一人で暮らす高齢者の方の生活状況を介護に関わる地域のステークホルダーが共有することによって、データに基づいたコミュニケーション、適切なサポートが可能となる。  
また、生活行動をモニタリングすることによって異常の早期発見、早期介入が可能となり、重度化防止効果が期待できる。

取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

- ・要支援や要介護の状態になってしまったとしても、自宅で暮らし続けたいという希望を持っている独居高齢者の生活を持続可能にする。
- ・多職種連携が難しかった介護に携わるステークホルダー間の連携を容易にし、地域で高齢者を見守る体制、環境を作る。

ステークホルダーとの連携

ライフレポート（モニタリングの結果）を高齢者を支える家族、地域の介護従事者の方々、医師等が共有することにより、高齢者の生活実態を把握した上で、エビデンスに基づいた適切なサポートが可能となる。

モデル性・波及性

プライバシーに配慮した形で宅内の情報を取得可能。電気の使用状況などをベースに、温湿度や人感などの環境センサーの情報を元に高齢者の生活実態を見える化する。プライバシー確保の懸念があるWebカメラ等や、24時間自分の体に接触することが求められるウェアラブル型は使用しない。

自由記述欄

目指す社会

一人暮らしの高齢者の方でも安心して暮らせる社会：在宅介護の質の向上  
 新型コロナウイルスのような非常時でも安心して暮らせる社会：非接触での見守り

家族

- ・ 離れて暮らす親が心配。
- ・ 知らない土地(施設等)ではなく、なじみのある土地で少しでもながく、生活してもらいたい。

介護事業者・医療

- ・ ニーズにあったケアプランの作成やサービス提供
- ・ 常時～非常時の切れ目のない生活実態、リズムの把握
- ・ 気づきを助け、適切なサービス介入の実行



【高齢者】

自治体

- ・ 独居高齢者にも住みやすい環境、サポート体制作り
- ・ 非常時にもスムーズに対応できるシステム作り

「Withコロナの生活スタイル」  
 非対面、非接触で、利用者の生活リズム、実態を把握可能。

**独居高齢者でも安心して自宅で暮らすことのできる  
 常時～非常時の切れ目のない介護サポートシステムの形成。**